さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2016.11.1(火)
No.227

事務権限移譲で

権利後退はさせない

――今後も交渉を強める――

さいたま市が県と同じ行政権限を持つことにあたって、私たちの勤務条件はどうなるか、心配されるところです。しかし市は県の職員並みにレベルを下げる動きを見せています。組合は、働きがいのある市になるように今後も交渉を強め、私たちの権利を守る運動を進めていく予定です。

（書記長　稲葉達也）

■レベル低下を狙う

事務権限移譲に伴って、来年度からさいたま市の教職員は、全員が市費職員となります。現在、市の職員の諸権利と県費職員の諸権利を比べると、県の方が高いレベルにあります。

しかし、県費職員が市費職員になるにあたり、さいたま市は、「オールさいたま」（元市職も元県職もこれからは一つ）と聞こえのよい言葉を使いながら、県費での諸権利を市費のレベルに下げようとしています。私たちが望んだわけではなく、国の決めた事柄で、不利益を蒙るのは納得のいくものではありません。

■懸念される人員不足

組合は、これまで、市教委企画室との度重なる話し合いをもち、諸権利の維持を訴えてきました。

今後埼玉県には、県費教職員と市費教職員が存在することになります。となれば、待遇のよい方に人は集まることになります。ただでさえ、産休代替や病休代替不足で苦労しているのに、来年度から諸権利の後退により、さらに人員不足に悩まされることになります。

■権利の底上げでこそ真の「オールさいたま」

条件の悪い市職の権利を底上げすることで、元県費職員も元市費職員も元気になることこそ、市が行うべき本当の「オールさいたま」です。さらに言えば、休暇や介護の日数を増やすことに新たなお金は必要ありませんから、やろうと思えばできることです。

同じ政令市の京都市は、府費での権利をほぼ維持したという報告がありました。組合だけでなく、京都市の校長会も権利維持に力を発揮したそうです。さいたま市の校長会にもイニシアティブを発揮して頂きたいと思います。

■「働けてよかった」という市に

さいたま市で働けてよかったと思えるようになるか？さいたま市の本気度が試されているように思います。

組合としても、これまで同様私たちの勝ち取ってきた権利が奪われないよう委員会との交渉を強めていきたいと思っています。

フットサル大会に１１０人集う

十月九日、教職員フットサル大会が行なわれました。場所は屋内フットサル場のジョモニスタ上尾。さいたま市教職員組合が主催するこのフットサル大会も今年で１０回を数え、今年の参加者は、約１１０人。あいにくの雨にも関わらず、身軽な服装をまとった参加者が集まりました。しかも、みんな笑顔。楽しそうです。準備運動や練習などで汗を流しているうちに開会式となりました。

開会式では、「けがをせず、交流を深めよう！」と実行委員長のあいさつに続き、主催者のさいたま市教組の伊藤委員長のあいさつ。「組合はさいたま市５０００人の教職員の先頭に立って、要求実現の運動をしています。共済も教職員同士の助け合いであり、組合の活動です」と語りました。

開会式のあとはＡ・Ｂ二つグループに分かれてのリーグ戦が早速始まりました。今回は昨年の反省から順位をつけないことになりました。白熱しすぎて、試合が固くなるからです。実行委員会の話合いで決まりました。

また、どのチームにも女性が１名以上出場すること、女性が得点したら３点、などみんなが楽しめるルールの工夫も実行委員で話し合われました。みな夢中ボールを追いかけ、大きな声で応援していました。学校のことは忘れて、思いっきり体を動かし、楽しい午後を過ごすことができました。スポーツをすることで会話も弾み、学校を超えて多くの人と交流できたことも有意義でした。

組合は、教職員の願いを実現しようと日々、活動しています。今回のフットサル大会のようなレクリエーションだけでなく、働きやすい職場になるように市教委と交渉したり、子ども達の学ぶ環境がよくなるように署名を集めて要求したりしています。一人の力は小さく、願いが届かないことも、組合がみんなの願いをまとめることで、よくなることもあります。どうぞ、今後とも組合の活動にご協力お願いします。

（指扇小　長島大志）

みんなで学習しよう！人事評価と私たちの給与

女性部主催学習会
12/2　18：30～　大宮教育会館1F